日文 教授用資料

すぐに使える！

書写のABC

指導のアイディア編

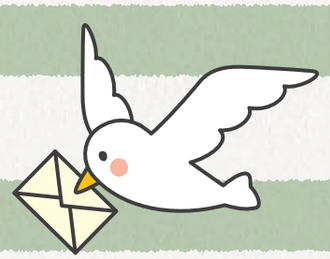
宮本毛登明 著　宮本榮信 監修

本資料は，一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り，
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！ 日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版



すぐに使える！
書写のABC　指導のアイディア編

日文 教授用資料
令和元年（2019年）6月10日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

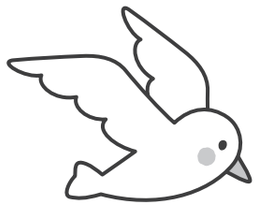
CD33445

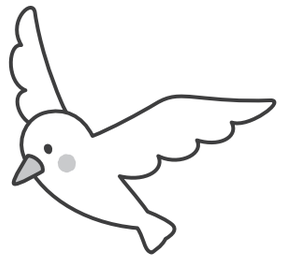
日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

目次

はじめに …… 1
課題に取り組む前に
よい姿勢の合言葉を …… 2
正しい筆記具の持ち方 …… 4
試し書きとめあてのもたせ方 …… 5
自分の文字から自分の課題を見つける …… 6
書写用語で話し合える工夫を …… 7
小道具で楽しく、わかりやすく
穂先の向きや穂先の通り道を意識させるには …… 8
モールなどの小道具を使って …… 9
悩ましい筆順と接筆の話 …… 10
点画ピースを使って文字の組み立てをねらう …… 11
文字の外形と概形の違いって何？ …… 12
効率のよい練習時間を
練習用紙にはレベルをつけて …… 13
運筆動画は有効的に …… 14
基本的な点画の練習はいつでも …… 15
範書だって楽しく …… 16
まとめ書きとペアトーク …… 17
ゴールした喜びをみんなで …… 18
片付け名人に …… 19
子どもたちの日常に書写を
生活にいかす工夫を …… 20
いろいろな場面で教科書を開こう …… 21
筆に親しめる環境づくり …… 22
手書き文字で掲示物を …… 23
子どもにつけさせたい力とは …… 24
あとがき …… 24





はじめに

書写が楽しくなるちょっとしたアイディア

書写の授業はどう指導すればいいの？　教科書を見て書かせるだけではダメなの？　って悩んでいる先生も多いのでは。

よく、書写と体育は似ているっていわれます。道具や用具の準備や片付け、場の設定、技能を高めるポイントは話し合いで理解していても、実際に実現できたかどうかは別物である点などなど…。

さか上がりがすぐにできるようになる、正しく整った文字がすぐに書けるようになる、そんな近道はないかもしれないけれど、自分の課題を見つけて、楽しみながら練習に取り組めるような、ちょっとしたアイディアで授業の展開が工夫できたら、「もっとやってみたい。」「もっと学びたい。」と感じる子どもが一人でも増えていくはずです。

もっと書きたい、書写って楽しいって子どもたちが思うと、日常のノートの文字も少しずつ変わっていきます。子どもたちの書写力が伸びていきます。指導する側も、書写の時間が楽しくなっていきます。

この冊子は、すぐに使えそうな、ちょっとしたアイディアを紹介しています。日本文教出版の教師用指導書や教育資料「線Line」に紹介されていたものから、私が参加した書写の研究大会で知ったアイディアなどを掲載しています。気になったアイディアを試しにやってみてください。また、自分なりのアイディアも加えて、さらにいい物を創り出してみてください。先生方のアイディアや創り出された資料を必要としている子どもがクラスにいるはずです。それらで輝ける子どもがいます。書写が苦手だった子が好きになっていきます。そんな子どもがクラスに増えていってくれたら、うれしいですよね。

文字を書くって楽しいと思ってくれる子どもと先生がうーんと増えるといいなって思っています。

宮本 毛登明

よい姿勢の合い言葉を

正しい姿勢は、正しい文字を書くためだけでなく、子どもたちの集中力を高め伸ばします。正しい姿勢を長く維持できる子は、集中力を持続でき、学習効率もアップします。姿勢が乱れると文字も乱れ始め、学習への意欲も乱れてしまいます。

書写の時間に限らず、どの教科の学習の時でも、子どもたちの姿勢が気になったら、

「よい姿勢。」

と、先生が声をかけるだけで、

「ぴた、ぴん、ぐう。」

と子どもたちで合い言葉を唱えて、姿勢を確かめるようにしましょう。よい姿勢の子どもを見つけて、

「○○さん、とってもいい姿勢だね。では、○○さん、お願いします。」

と「よい姿勢」の声を子どもに任せてもいいですよね。

合い言葉だって、教科書通りでなくたっていいです。クラスだけの合い言葉や全校そろえた合い言葉だっていいです。

「ちょん、ぺた、ぴーん！」

と一年生の子が、「ちょん」で椅子に浅く座り直し、「ぺた」で足を少し空けて、「ぴーん」で背筋を伸ばす仕草は見ているだけでほほえましいです。高学年だって、正しい姿勢が身についていなければ、躊躇せずに取り入れてみましょう。

教室の掲示物の一つに、姿勢図を拡大印刷して貼っておくこともお薦めです。また、足型をラミネートして、「足ぺったんシート」として、机の下に置くなど、足の裏をつけるように意識させるような工夫をしたいですね。

正しい筆記具の持ち方

現代の子どもは、手を使った作業が苦手です。野山をかけ回り、兄弟にもまれ、遊びのなかでしっかりと体を動かす機会が少ないのも一因かもしれません。小学校の全学年で、指の力不足による、鉛筆の正しい持ち方のできない子が増えています。

特に、親指の力が弱く、指先で物をつかむのが苦手です。そのため、他の指に無駄な力が入り、疲れやすい執筆の子が多いのです。

しかも、正しい筆記具の持ち方は、意識させるだけでは定着しません。「くせが強い」持ち方でも、十分に文字は書けます。でも、正しい持ち方の方が文字が整えやすいし、疲れず長い時間書けるよさを体感させることが大事です。

筆記具メーカーの補助具を使うのもいいです。鉛筆や毛筆の軸に指シールを貼ったり、輪ゴムを使ったりする方法もあります。鉛筆なら、回転させるために糸とクリップをつけて、巻き上げる練習も、指先運動になります。

一年生を担当したことのある先生なら、おへそシールや目線シールと一緒に指シールがお薦めです。同時ではなく、一つできるようになったらレベルアップで次のシールが増えるようにしてやれば、定着する子もいるはずです。

試し書きとめあてのもたせ方

試し書きは、授業の最初に書くことが多いです。日頃の文字を書かせたいので、何も見せずに、課題文字と筆順だけ確認して書かせます。授業後半のまとめ書きと比較して、一時間での伸びが顕著に表れると、子どもも自信をもってくれます。

試し書きは文字の如く、試しに書くわけで、日常の文字を振り返らせる目的なら、デジカメやスマホ、タブレットで、連絡帳やノートの文字を画像にしておけば、試し書きに費やす時間を省けます。

めあてをもたせる目的なら、三つぐらいの例を見せてどの文字が一番整っているのか、どこを直せばよくなるのかを話し合えば、めあてにすぐ迫れ、試し書きの必要性がなくなります。

試し書きを取り入れて、試し書きにシールを貼ったり、書き込みをしたりして、文字の規準に気づかせるようにもできます。試し書きをまとめ書きとの比較だけに使うこともできます。試し書きをマジックや筆ペンなどの違う筆記具で、画用紙や他の用紙に書かせることも、目的に合わせて取り入れてみましょう。

試し書きをすることで、たくさんのめあてをもてます。全体で一つにしぼったり、全体のめあてと個人のめあての二つを考えたりもできます。

試し書きを授業のなかで、どういかしていくのか目的を考えて、いろいろな方法でやってみましょう。

自分の文字から自分の課題を見つける

自分の文字に自信のない子がいます。まれに自信たっぷりの子もいます。書写が苦手な子の多くは、「自分は下手で、うまく書けない。○○さんのように書けないから。」と、自分と他の上手な子の文字を比べます。書写で大切なのは、今の自分の文字より明日の自分の文字を少しでも上達させることです。

そのためには、自分の文字をしっかりと見て、まず何をどう直すべきか課題を正しくつかむことです。そして、何画目を書くときにどうすればよいかを考えられることです。

試し書きなり、自分の日頃の文字を見て、自己批正します。シールを貼ったり、書き込みをしたりさせることも多いです。いずれにせよたくさん書き込ませず、一つだけにしぼって書かせましょう。

そこから、自分のめあてが一つに決まります。そして練習するなかで一つ目のめあてがクリアできたなら、二つ目の新しいめあてを見つけさせていきます。

どんな文字も一万回書けば上手に書くことができるようになるといわれます。一万回も書かなくても、一回一回課題を解決できるよう意識して書けば、百回も書かなくても書けるようになるのではないでしょうか。反対に、何も考えずに書いていたのでは、一万回、同じ文字を書いても、上達しないのではないでしょうか。考えて、書いて、また考えて、また書いてみる。その繰り返しと積み重ねが上達につながるのです。

書写用語で話し合える工夫を

文字を正しく整えて書くためには、基礎・基本となる、どの文字にも共通する規準がいくつかあります。字形や文字の中心、組み立てられている一つ一つの点画の長さや方向など。

自分の文字を批正するときも、友達にアドバイスするときも、規準をつかむための話し合いのときも、友達と考えを交流するときには、話し合いをスムーズに進め、規準を理解するためにも、書写用語を使えることが必要となります。「うまく書けた。」「上手に書けた。」「へんになった。」「バランスが悪かった。」などは、感覚的なもので、話し合いを深めることができません。「○画目が短かった。あと1㎝ぐらい長く。」とか「△画目の方向が、右下でなく真横。」のように語れる力を育てるようにしたい。そのためには、教科書に出てくる書写用語は、いつも板書に掲示できるようにしておきたいですね。

姿勢の合い言葉「ぴん」「ぐう」「べた」、執筆のときの「始筆」「送筆」「終筆」、点画の名称の「縦画」「横画」「折れ」など。文字の規準となる「中心」「字形」「筆圧」「ゆずり合い」「余白」などまで含めると、一度作ってしまえば、全学年で使うこともできます。

毛筆の手書き文字は、線の太さや位置が、ほんのわずかに異なるだけで、文字の表情が変わってきます。一回書いた自分の文字を、どう直せばいいか、考えてもう一回書いてみる。その積み重ねが、文字を整えて書く力＝書写力になっていくのです。

穂先の向きや穂先の通り道を意識させるには

穂先の向きはいつも十時半。左45°と言葉で意識させるだけでなく、「筆先くん」で実際に見せることも効果的です。フェルトで裁縫して使ったり、スポンジをカットして使ったりといろんなものが考えられます。

スポンジなら、水をつけて水書きもできます。フェルトでのパペットなら、穂が裏返る運筆まで見せることができます。

また、筆の軸を回さないためには、軸にシールをつけたり、洗濯ばさみをつけたりすれば、ペアの子が見やすくなり、評価してあげたりアドバイスしてあげたりできます。

穂先の通り道を見せるには、二色筆です。薄墨をつけた筆の穂先に朱液か絵の具をつけて書きます。範書だけでなく、練習コーナーで子どもたちが体験できるように準備することもあります。

私は、朱液で書かせて、穂先に墨をつけることが多いです。手元に筆洗いしたペットボトルなどの水が残っていれば、それを薄墨として使うことがあります。

15ページでも述べていますが、水書の筆先にチョークの粉をつけて書いても、乾いたときに、穂先の通った跡が、残ってくれます。

モールなどの小道具を使って

低学年の書写では、ただただ鉛筆で書くだけでは、集中の続かない子も出てきます。フェルトペンや折り紙に書いてみようとしても長続きはしません。そんなときには、モールを使って文字を作らせたり、小石をならべて、文字にしてみたりする工夫もあります。

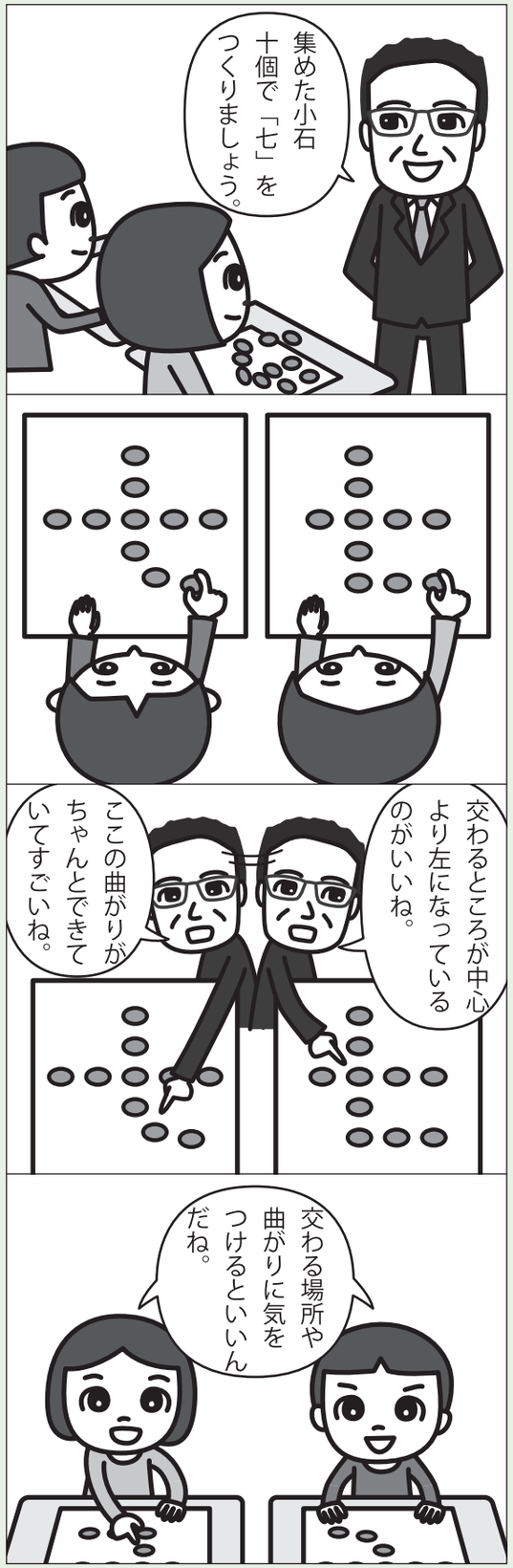
粘土なら、低学年の子は教室に置いていますから、粘土板の上に粘土で文字を作ることは容易ですよね。毎回やると、書写の時間は粘土の時間と勘違いする子もいるので、要注意です。

まっすぐなストローと、曲がるストローで折れ・折り返しと曲がりの学習ができます。

衛生面で少し心配なところがありますが、箱に砂を入れて、指で書く砂文字は、箱をゆすればくり返し使えます。

格子状にならんだ点を結んで、文字を作ったり、格子状にならんだ釘に輪ゴムで作ったりしているのを見たこともあります。

いずれにしても、その単元やその時間のねらいを印象的に理解するための手立てですので、めあてに合わせて、小道具を準備しましょう。



悩ましい筆順と接筆の話

書写を深めていくと、問題になるのが、筆順や接筆です。

筆順はあくまでも文字を整えて書くうえで必要となる、点画を組み立てる順番を、原則に合わせて決められたものです。行書や草書になると筆順が変化する漢字も少なくありません。文字を整えるのにあえて筆順を変えた方がよいと考える子どもがいたとしたら、「それは誤りです。」とは言えないことになるわけです。私は、正しい筆順には基本の筆順としておさえ、異なる筆順も認めていくようにしています（詳しくは「書写のＡＢＣ　筆順指導編」を）。

また、点画の接筆も不思議な点が残されています。みなさんは「当」や「雪」の「ヨ」の部分の最終画の接筆はどう書いていますか。「ヨ」のように横画が出ますか。「ヨ」のように縦画が出るように接筆しますか。「ヨ」のようにどちらも出さずに、うまくごまかしますか。平仮名の「な」の結びは、平結びですか。三角結びですか。

結論から言うと、どれも正解です。書写の教科書会社が異なると、接筆も異なるものがあるのです。国語と書写の教科書が異なると、異なる場合が出ています。結びの形は、小・中で異なります。そういう現状を把握して、子どもたちに「正しい」筆順や接筆を学ばせていかないといけないのです。

筆順は、カラー粘土を使って、中心線や外形の補助線が入った台紙に、文字を完成させる方法があります。低学年でよく見ましたが、他学年でも取り入れてみてもいいと思います。

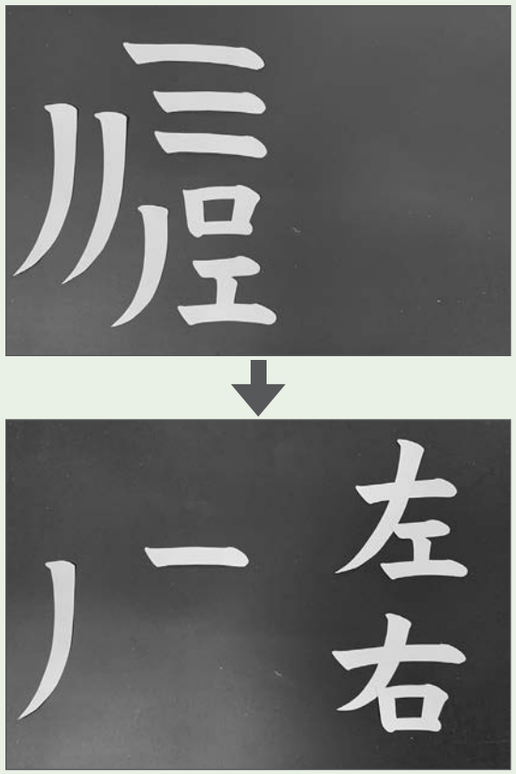
ＩＴ機器の普及によって、正確性の低い活字文字があふれ、字形や接筆まで乱れている世の中で、手書き文字の温かさはかけがえのないものであります。せめて、書写の時間だけでも、手書き文字であふれた空間を大切にしていきましょう。

点画ピースを使って文字の組み立てをねらう

分解文字で点画ピースを作り、黒板上で組み立てさせる。この方法は楽しみながら、文字を組み立てる技能が身につきます。筆使いが得意でなくても、組み立てができる子も多いはず。

準備は大変だけど、人数分作って、半紙サイズの画用紙に糊で貼る活動を授業で取り入れたことがあります。一人一人感想を発表させると、「○画目の位置が上すぎた。」「交わる場所を中心になるようにすればよかった。」など、文字の規準や自分なりの課題を発見できました。毛筆用具を使わなくても、書写の授業が成り立ちます。まとめに、グループで分解文字を組み立てて、どのグループの文字が一番か競わせました。「教科書の文字とぴったり賞」から、「教科書よりも美しいで賞」や、「担任お気に入り賞」などで大変盛り上がりました。

さらに、一画ずつ色を変えたり、偏と旁など大まかな固まりで組み立てたり、長さの異なる、使わない点画ピースをまぜたりして、いろいろ工夫することで、筆順も意識させることができます。



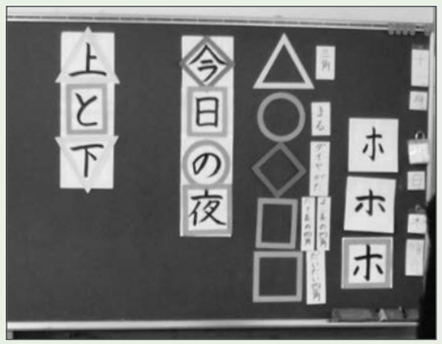
文字の外形と概形の違いって何?

仮名でも漢字でも、文字には大まかな形があります。横長・縦長・真四角・三角・逆三角形。ますに書くときに、まずいっぱいに書くのではなく、ますの中に概形をイメージして書くことが大切です。行に書く場合は、文字の大きさも一文字一文字が変わるので、字間をそろえて概形を並べていくことになります。

概形も外形も同じ意味で、違いはありません。子どもに見せるには、読みやすい「外形」を使う方がいいのかもしれません。

ラミネートフィルムの内側にマジックなどで外形を書いて、ラミネートすれば、外形シートが簡単にできあがります。人数分作って渡してやると、外形を意識する子が増えてきます。

外形も細分化すれば、台形だの五角形だのありますが、ある文字が三角形か台形かで論議する必要はなく、あくまで文字を整えて書くための一つの方法ですので、どちらの考えも認め、その子に合った考えで書かせるようにします。



パソコンで打ち出した文章が、文字の外形に合わせて字間までそろえるようになったら、ますます手書き文字の良さが薄れてしまうかもしれませんね。

練習用紙にはレベルをつけて

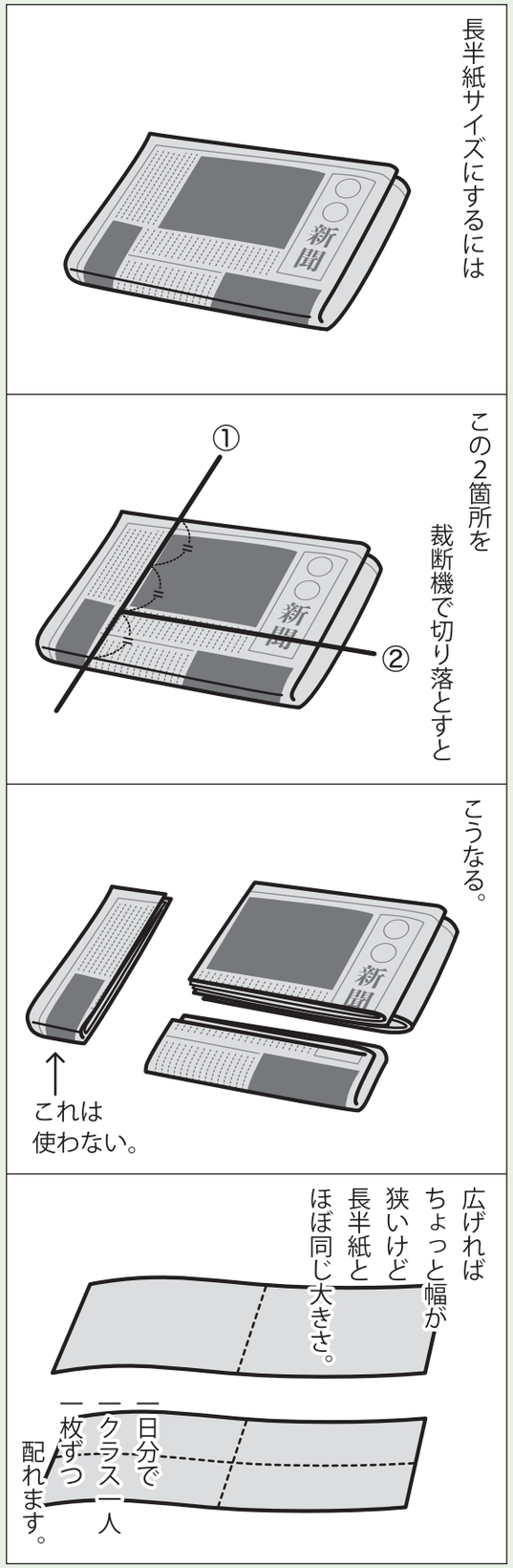
練習用紙には、籠字・骨書き・外形や中心の補助線などがあり、それらを組み合わせれば何通りかできます。私はそのなかから三～四枚にレベルをつけて配ります。どの子も、その練習用紙をレベル1から順番に練習します。早く終わった子は、半紙に書いたりもう一枚を選んで取りに来たりするように促しています。

高学年になると、全体のめあてと個人のめあてをもつようになるので、個人のめあてを予想して練習用紙を準備しておかないといけません。とはいえ、どの子にも合わせたものなど無理があります。高学年ともなれば自分で練習用紙を作ることもできるので、そういう経験をさせておくことも取り入れるべきです。

半紙に直接印刷できる高性能な印刷機がある学校もあるそうですが、更紙に印刷して、更紙に直接書いたり、上に半紙を重ねて書くこともできます。印刷する更紙は、もちろん古紙で、裏はいろんな教材のプリントや学校からの手紙などが印刷されていても気になりません。

新聞紙を半紙大に切って、それに練習させることだってあります。長半紙のときは、特に重宝します。

いずれにせよ、めあてを解決するための練習用紙になるように、いろいろと考えることも楽しみの一つです。子どもたちの反応や、まとめ書きでの課題解決の成果を見て、さらに練習用紙を工夫していきましょう。



運筆動画は有効的に

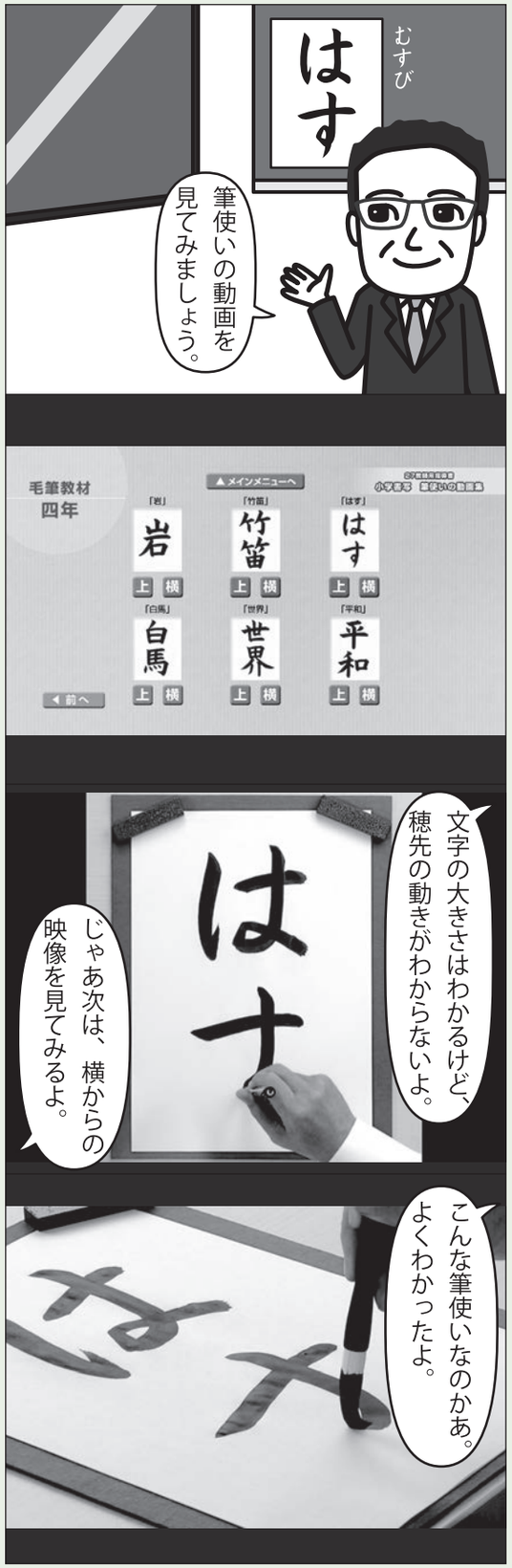
教師用指導書に付いているDVDのなかに、運筆動画があることを知らない先生がいます。知っていても使ったことのない先生もいます。他にも、教科書の紙面がデータとして入っていて、カラープリンターでプリントアウトすれば、教室掲示に使えます。

私は、二色筆で書いた動画を自分で撮影しDVDにしています。穂先の通り道を見せたいときに使うことがあります。でも一番は、やはり実際に書いているのを見せるのが効果的です。

運筆動画のよいところは、繰り返し見られることです。また、途中で止めて、解説を付け加えることも可能です。

また、練習やまとめ書きのときの児童の運筆の様子を動画で撮影して、教室のテレビに流して、クラス全体で見ることもあります。

情報機器の進化で、容易に動画を撮影・鑑賞できるわけですから、ぜひ、いろいろな場面で有効的な活用をしてきましょう。

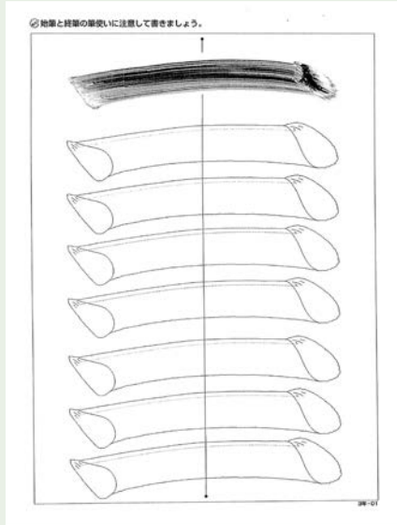


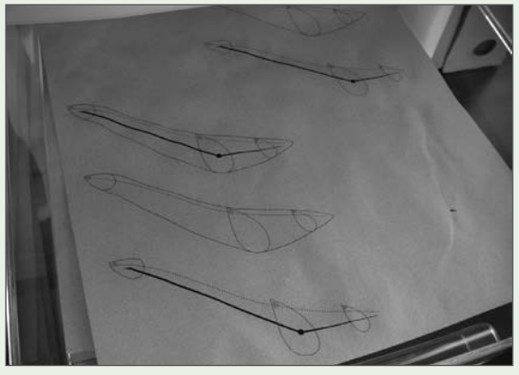
基本的な点画の練習はいつでも

漢字を形成する点画を分類すると、八つの基本的な点画になります。三年生で、その点画の筆使いを学習します。そのときに作成する練習用紙の一つに籠字があります。その練習用紙は、四年生以上でも、ぜひ使ってほしいです。基本的な点画の筆使いを思い出したり、繰り返し練習したりと、いろいろな場面で使えます。また、縮小して使えば、小筆の筆使いの練習としても活用できます。

この籠字の練習は、画用紙に印刷して、水書きすれば、何回も使えます（水書用紙みたいに色は変化しないけど…）。

予算的に可能なら、水書用紙に印刷して、水書用の大筆といっしょに、雨の日の休み時間に毛筆コーナーを設置して、筆に親しむ機会を作ってあげるのもいいですね。





範書だって楽しく

教師も範書に積極的に取り組んでいきましょう。「範書なんて無理無理。」なんて言わないで、授業のめあてをおさえながら、規準に気をつけて「先生もやってみるね。」という気持ちで取り組んでみましょう。教師自ら、文字を丁寧に書いている姿を見せることが、一番のお手本です。

水書板に水書きするだけでは、乾くと消えてしまいます。チョークの粉を水で溶いたものを使うと、乾いても残りますが、乾ききれば黒板消しで消せます。黒板消しクリーナーの中の粉を使えば簡単です。また、短く使えなくなったチョークを集めて、砕けば、色も楽しめます。二色筆だって可能です。

小黒板にチョークで、すきまなく塗り、中心線や外形・補助線を引いておけば、水書きした部分のチョークがはがれて、範書が残ります。

練習コーナーに置いて、子どもたちにも体験させれば、喜んで練習に取り組んでくれます。

まとめ書きとペアトーク

ペアトークやグループトークは、いろいろな教科でも取り入れると思います。書写でもまとめ書きをペアトークでお互いの伸びを称賛し合うこともあります。近年では、まとめ書きで書いた作品でなく、まとめ書きをしているところをペアの人が見て、コメントすることが多くなっています。

まとめ書きをする子が、自分のめあてをペアの子に伝え、緊張しながらまとめ書きをします。ペアの子は、書いている様子をじっくり見て、めあてについてコメントしてあげます。書かれた文字だけではなく、書く姿勢や執筆の様子まで見て、アドバイスできます。

相手が褒めてくれれば、交代した後、褒めるところを一生懸命見つけようと見ています。よかったよシール三枚とアドバイスシール一枚を持たせ、シールを貼りながらトークさせると、見る側の意識も高まります。

まとめ書きの用紙も工夫すれば、子どもたちは緊張感をもって真剣にまとめ書きします。ただ、半紙に担任の印を押したもので十分なのです。「この一枚しかない。この一枚に全てをかける。」という意気込みが大切なのです。

ゴールした喜びをクラスみんなで

まとめ書きした後は、試し書きとまとめ書きを並べて、一時間の伸びを見て評価します。

個人評価・相互評価・全体評価と、方法は様々あります。なかでも、全体評価はクラスみんなが褒めてくれる時間でもあるので、できれば一単位時間に四～五人の全体評価をもちたいです。それが無理でも、学期に一人一回ずつはチャンスを与えてあげられるようにしたいです。

色の違う二枚の画用紙をテープで止め、「試し書き」と「まとめ書き」とか「ビフォー」と「アフター」などの表示をつけたものを四～五枚準備して黒板に貼り、その上に子どもの作品を重ねて、みんなで「ほめほめタイム」なる、よいところ見つけをしてあげます。めあてをもって取り組んで、伸びを見せているところを、クラスみんなで喜び合うひとときです。めあてを達成してゴールした友達を、みんなで祝福してあげましょう。

また、子どもたちが見つけにくい伸びを教師が言葉にすると、「そんな見方をすればいいんだ。」「そんな褒め方もあるんだ。」と子どもたちが気づきます。ときには、「線質が…」「文字の表情が…」「余白の使い方が…」「作品が明るいね。」「この文字、先生好き♡」など、より専門的な言い方とか、抽象的な褒め方も使ってみてもいいでしょう。

友達から褒めてもらって嫌な子はいません。みんなから褒めてもらいたいから、まとめ書きにより真剣に取り組むようになります。自分の文字をみんなに見てもらうのがはずかしい子も減ってきます。

片付け名人に

三年生以上の毛筆学習では、毛筆用具の準備・片付けが子どもにとってもひと苦労ですよね。身のまわりの整理が苦手な子にすれば、片付けは苦痛かもしれません。

教科書にある「用具の後しまつ」を毎回確認させたり、掲示物として用意しておいたりしたいです。

下のような掲示物をクラスの子どもたちと作成するのもいいですね。

筆の洗い方は、学校の水道の位置や数によって制限される場合もあります。教室の後ろに、レジャーシートを置き、水の入ったバケツを用意したり、一人

一人ペットボトルで洗ったり、近くの病院にお願いして、バリウムの空容器を人数分揃えたり。「筆掛けくん」を作って洗った後の筆を掛けて、教室保管。ときどき、放課後に筆をチェックして、手入れしたりするのも必要なのではないかと思います。

生活にいかす工夫を

せっかく身につけた、文字を整えて書く力を生活のなかでのあらゆる書字活動でいかせないといけません。

硬毛の関連とか、生活のなかで毛筆を使って書く活動を取り入れて終わってはいけません。授業のなかで見つけたり身につけたりする規準を、他のどの文字のときにいかせるのか、学習した力を使うのは、どの文字を書くときなのかを理解する時間が必要となるわけです。

授業の最後に、「今日学習したことをいかして『○○』と書いてみましょう。」という時間が必要なのです。時間的に無理なら、一分でもいい。「今日の学習をいかせる他の文字は何?」とたずね、考える時間をとることです。そして、その文字を書く他教科の活動のときに「この前の書写の時間を思い出してみましょう。」と一声かけるだけでいいのです。毎回言わなくていいです。直近の一回だけでいいです。子どもたちが「なるほど。」「あ~あ。」と納得できるタイミングが最高ですね。

生活のなかで、毛筆で書く活動を取り入れる必要はないと前述しましたが、子どもたちから、毛筆で書きたいという声があるのなら、ぜひ取り入れてください。ポスターや掲示物を書くときに、大きく太い文字で書くためには、毛筆は適した筆記具です。色をつけたければ、絵の具で書けばいいし、墨で書いたふち取りをカラーペンですればいいのです。

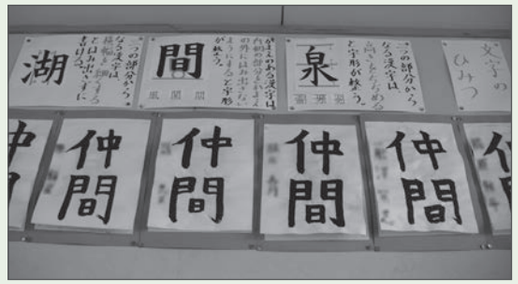
いろいろな場面で教科書を開こう

書写の教科書は、書写の学習にはもちろんですが、いろいろな場面での活用もできます。当該学年で学習する漢字が、手書き文字で一覧表になっています。原稿用紙を使うときも原稿用紙の使い方のページがあります。様々な言語活動や書字活動のときに、書写の教科書を開いて参考にしましょう。また、学習したことを思い返すことにも使っていきましょう。

高学年でも、巻末の平仮名・片仮名の表を事あるごとに見て、正しい仮名を再確認してほしいです。濁点や半濁点の位置も、いいかげんになっている子も多くなっています。

書写の教科書は、できれば前の学年のものも開いて見られるようにしておきたいです。一年生から当該学年までがあるということなしです。せめて、先生方は常に、全学年の書写の教科書が手元にある状態であってほしいです。

教室の掲示物に、書写年表みたいなものもあるといいですね。書写の授業で学習した題材と、文字を整えて書くポイント（規準）を貼っていき、学習するたびに加えていくようにして、一年間が終わるときに、振り返られるようにしてみてもいいですね。



筆に親しめる環境づくり

今や安価に水書用紙が手に入りますよね。雨の日など、教室の一コーナーに水書コーナーが設営され、自由に筆にさわれる環境があるといいですよね。最初はものめずらしさに手形をつけたり、お絵かきしたりするかもしれません。その横に、既習の題材の手本を置いておくと、文字を書く子も出てきます。強要するのではなく、書きたい子が書きたいときに使えるようにしておくだけで、少しでも筆に慣れる機会となります。

水書用紙は無理でも、水書板を自由に使えるような機会があってほしいと思います。お絵かきになったって、軸を立てて細い線で描くことも筆に親しむことになります。遊びのなかで、友達とワイワイ楽しく、筆を動かしている時間は、その子の書写力を必ず向上させてくれます。

昔の人は、達筆の人ばかりです。筆記具が毛筆しかなかったからです。漢字テストを小筆で書かせてみましょう。最初はつぶれて真っ黒で何を書いているのかわからなかった子も、あきらめずに何回か挑戦させると、筆先で読める文字が書けるようになります。

筆の弾力と、筆圧と線の太さの関連性を教えなくても、自然と身につけてくれます。

手書き文字で掲示物を

自分が担任している学級の掲示物を見回してみましょう。さあ、手書き文字と活字文字の割合はどうなっていますか。手書き文字でも、教師の手書き文字と子どもの手書き文字の割合はどうでしょうか。

何が理想なのかはわかりませんが、子どもたちの手書き文字が多いと心が温かくなって心地よく感じられるはずです。教師の手書き文字が多いと、一見、手書き文字のよさを感じますが、担任による支配的な感じも受けてしまいます。活字文字が多いと、さみしい感じを受けてしまいます。活字で温かみを出そうと、ポップ体などで掲示していると文字の正確性が失われているので、だらしない感じを受けてしまいます。

人によって感じ方は異なるかもしれませんが、ぜひ、手書き文字があふれる掲示を目指してほしいです。子どもたちと一緒に掲示物を作ってほしいです。美しい文字でなくていいのです。一生懸命丁寧に書こうとがんばった文字がいいのです。

どうしても活字でというときには、せめて、教科書体もしくは楷書体にしていただきたいです。活字体のなかでも正確性が高い書体だからです。明朝体になると正確性は高くなくなります。ゴシックやポップ体は、もう低すぎます。

書写で学習した、正しい字形や画の接し方が、掲示物の文字によって失われないような配慮を忘れてはいけないのです。

子どもにつけさせたい力とは

これは、岡山県指定の書写の研究を引き受けてくださった小学校の子どもたちの作文です。

この学校は校長先生を筆頭に、とても熱心な先生方ばかりで、研究一年目から、書写について研修を積み重ね、夏季休業中には二回も先生方全員で実技講習を計画されるほどで、先生方が文字を大切にし、書写の授業の工夫をいろいろと考え、実践されていました。

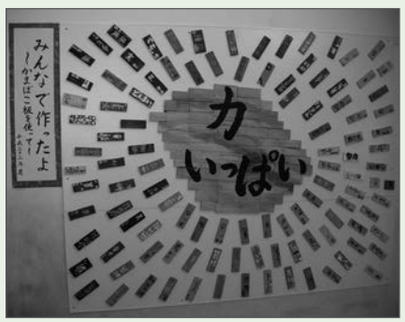
そして、二年目の研究が終わり、三年目の研究大会について話が進んでいた頃、ふと、地方のローカル新聞の学校紹介のコーナーに当校の記事がありました。

五年生の子どもたちの作文を読むと、書写学習を通していろいろなことを学び、いかしている様子や気持ちが伝わってきて、とても嬉しく思いました。

書写の授業を工夫することで、子どもたちがこんな感想をもってくれたら、最高ですよね。文字を正しく整えて書く力をつけるのと同時に、日本文化を大切にしようとする態度や、相手のことを考えて文字を書くことのできる人になってほしいです。

教師の文字に対する姿勢が、子どもに大きく影響を与えるのは間違いありません。

山陰新聞
NIE 2014年(平成26年)2月26日 水曜日
NIE（エヌ・アイ・イー） 教育に新聞を
書写を通して
字を一つ一つ大切に
自分でめあてを決めて取り組みます



あとがき

「平成」から「令和」へ 書き文字は「令」？ それとも「令」？

元号について、少し調べてみました。

元号制度は西暦六〇〇年前後に、中国から様々な文化と共に伝わってきました。日本では、六四五年の「大化」から始まり、「令和」まで二四八の元号が定められています。昔は、天皇一代の間に、災害や遷都、戦乱などの理由で何度も改元されましたが、明治以降、天皇一代に一つとなりました。現在は、一九七九年に成立した元号法によって、元号は内閣が決めることになっています。元号の条件として、①国民の理想としてふさわしい、②漢字二字、③書きやすく読みやすい、④これまでに用いられていない、などとなっています。「令和」の出典は、万葉集の「梅花の歌」の「初春の令月にして、気淑く風和ぎ…」からです。

ところで、「令和」の「令」はどのように書けばよいのでしょうか。小学校学習指導要領の学年別漢字配当表では、四年生に「令」という字体で示されています。活字の「令」と手書きの楷書体の「令」とでは形が異なっています。このことについて、常用漢字表には、「明朝体の字形と、筆写の楷書の字形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである」と明記されています。このことをふまえて、書き文字の指導をしていきましょう。

令 — 令 令

常用漢字表「第２ 明朝体と筆写の楷書との関係について」より

改元の機会に、日本の歴史や文字文化の歩みについて情報を集めて、子どもたちと語り合いたいものですね。

宮本榮信

※弊社ウェブサイトに，「令和」と「令和」の半紙原寸大資料を掲載しております。ダウンロードしてご活用ください。
https://www.nichibun-g.co.jp/2020/s-shosha/

宮本毛登明

岡山市立灘崎小学校教諭。香川大学教育学部（数学専攻）卒業後、昭和六十一年より岡山市内小学校に勤務。昭和六十二年より、岡山県習字教育研究会に所属し、展覧会部長、研究部長を歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

宮本榮信（墨童）

元千早赤阪村立千早小学校校長。「墨童書道会」主宰。大阪府教育委員会指導主事、大阪府内の公立幼・小・中の校園長、大阪府市小・中学校書写教育研究会会長などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

新学習指導要領対応！

書写のABC

授業に役立つ資料をお届けします！

筆順指導編

筆順の原則や，小学校で学習する漢字1,026文字の筆順や音訓，配当学年などを，資料として掲載しています。

言語活動編

国語科の言語活動などについて，学びのプロセスをふまえ，書写で学習したことがいかせる具体的な実践例を紹介しています。

日本文教出版webサイトでは，各教科情報や教育読み物，各種ダウンロード資料など随時公開中！　日文 書写　検索

「書写のABC」や「線 Line」などの教授用資料をご入用の方は，弊社編集部小学書写係，または，各地区営業担当者までお問い合わせください（編集部直通Tel:06-6695-2090）。